

村井 俊介

(文学部 歴史学科 4 年次生)

私は今後の仕事や人生において糧になる学びをこのツアーで得られた。

一つは台湾における自然を活用した取り組みである。日本と同様に多くの森林を有する台湾でも、地域の環境保全や新たな産業の創出、山岳地帯の人口減少が課題となっており、解決に向けた様々な取り組みが行われている。特に興味深かったのは森林資源の活用方法である。それは「林下経済」と名付けられ、平地では育てにくい作物を森林でしかできない栽培方法で育て、販売するというものである。山間部の活性化は私の地元・奈良でも実施されており、似た課題を抱えている。環境を守りつつ活用するための新たな方法を学ぶことができた。

もう一つは国立成功大学の学生との交流である。日本について深い関心を持っており様々なことを英語で質問されたが、うまく答えられずスムーズな会話とはならなかった。この経験を忘れずに語学力の向上に励みたい。



新型コロナウイルスの予防。症状があれば申告を促す看板。テレビでも繰り返し同様のCMが流れていた

岩畑 広輝

(社会学部 社会学科 2 年次生)

私は2月22日から2月27日に台湾で行われた、NGO 主催の「台湾の自然・文化体験エコツアー～森林、原住民、食から学ぶ～」に参加した。参加の目的としては、より多くの異文化に直接触れ自分自身の視野を広げることであった。高雄から始まり、原住民の住む霧台や台南などを巡り、台北まで行くという台湾を約半周するツアーであった。各地域で景観を始めとした、文化や現地の植物、食などの違いがありそれらを肌で感じる事ができた。特に直に感じる事ができたのは食だった。台湾の南に位置する高雄からの出発だったのだが、南部の食事は「甘い」「濃い」という印象が強く個人的には非常に苦手な味だったが、文化として受け入れることがで

きた。食を「文化」として体験でき、自分の未知な世界を知るという点で目的を果たすことができ、非常に有意義な経験となった。



アミ部落の共同墓地。日本が統治する前は、自分の家の下に祖先の遺骨を埋めていた。日本の統治以降、外に墓地を作るようになったそうだ

中原 紘子

(農学部 資源生物科学科 2 年次生)

このプログラムは、台湾の豊かな自然を活かした産業への取り組みや台湾の歴史や文化に触れる機会が多く設けられており、観光だけでは得られない経験をたくさんすることができた。その中でも印象に残っていることは、森林や生態系の環境を維持しながら自然を活かした「林下経済」である。これは山村地域で行われている取り組みで、住民だけでなく、政府や大学などが連携して行っている。実際に養蜂や薬用植物の栽培の様子を見学し、この地域の森林を活かした独自の産業であると感じられた。こうした産業を発展させることで、地域独自のブランド商品の開発や地域の活性化につながると考えられる。このプログラムを通して、森林や生態系と共生し、産業を行う取り組みに興味を持った。また、機会があれば、このような取り組みや活動に参加してみたいと思った。



神山部落にあるレストランでその地域の食材を用いた料理をいただいた

三戸呂 優美

(文学部 英語英米文学科 1年次生)

私はこの春、台湾のスタディツアーに参加した。このプログラムでは5泊6日で台湾の色々な場所に行くことができた。元々台湾は行ってみたい国だったので、このツアーに参加できてよかった。このツアーでは毎日たくさんのことを経験したが、一番心に残ったのは、成功大学の方々との交流である。私たちと同じ学生でありながら、その語学力にとっても驚いた。私達に日本語や英語でどんどん話しかけてくれ、英語も日本語もとても流暢に話していた。私も一生懸命英語で自分の考えていることを伝えようとしたが、自分の語学力の低さを痛感することとなった。

今回のツアーは私にとってとても充実した1週間だった。まず普通の旅行では行けないところに行け、見ることでできない場所に行くことができ、とても貴重な経験ができた。成功大学の方々と接して、私もいろんな国の言葉を話したい、語学力を身に付けたいと思った。その為に学生の間にはできること、学べることを考えていきたい。



塩田に行ったときに撮った写真。天気も良くてとてもきれいな写真が撮れた